



子どもが主役のアートミュージアム

- ・子どもが芸術を見て触れて学ぶ
- ・子どもの感受性を高め芸術性を磨く

おかざき

世界子ども美術博物館

岡崎市立奥殿小学校長 赤崎 類子

「おかざき世界子ども美術博物館」は、時代を担う子どもたちに国際的な広い視野と豊かな創造力を身につけてほしいとの願いから、1985年（昭和60年）5月4日、国内でははじめての子ども専門のミュージアムとして開館した。以来35年間、市内外の子どもの創造力を育む場となっている。

ピカソは子どもの頃どのような絵を描いていたのか？

「おかざき世界子ども美術博物館の誕生まで」当時の岡崎市の美術教師たちは「ピカソの絵は多く見る。ピカソは子ども



ロダン 《考える人》1880年 平山郁夫 15歳 《武者絵》1945年

ることが出来る。また、外国の子どもの絵を通して各国の文化・生活を感じることが出来る。＊ピカソ作品については常時3点展示している。

◆「DO(作る)」

芸術について考え、見たあとは芸術作品を「DO(作る)」である。館内には「親子造形センター」が併設されており、親子で木や粘土などを使って、実際のモノづくりを楽しむことができる。

親子造形センター

館内に併設している親子造形センターには絵画教室、粘土教室、工作教室、EB教室の4つの体験教室がある。

の頃どのような絵を描いていたのだろう。是非見てみたいものだ」「子ども中心の美術館が欲しい」「世界の子どもの絵を見てみたい」などの願いを機会あるごとに語り合っていた。

昭和55年に「岡崎地域文化広場」の計画が打ち出された。設立の趣旨は、次代を担う子どもたちが美術鑑賞及び創作活動の体験を通じて親子の心の触れ合いを深めるとともに、国際的な視野及び豊かな創造力の獲得を促進することにある。岡崎市の美術教師たちの熱意が伝わったのである。昭和58年から3年計画で建設が進め

・絵画教室

円形の紙に絵を描いてバッジを作ったり、紙に描いた絵がそのまま下敷になるラミアート、紙に描いた絵を布地に転写し手さげ、エプロンなどを作ったりすることができる。



巾着袋

・粘土教室

日常使うカップや動物などを粘土で作り本焼・楽焼することができる。



シーサー

・工作教室

ウサギ、ペンギンなどの動物の型紙に合わせてウレタンを切り、それをボンドで貼り付けて人形を作ることもできる(タイトル上部の作品)。ウレタン万華鏡は小さな子どもでも作ることが出来る。



岡崎地域文化広場

られた。その間、岡崎市の美術教師を中心に岡崎市の教師、日本人学校の教師はじめ、世界各国の協力を得て世界の子どもの作品収集が進められた。昭和60年「おかざき世界子ども美術博物館」「親子造形センター」「ふれあい広場」「芸術の森」などの施設群で構成された「岡崎地域文化広場」が完成した。

おかざき世界子ども美術博物館

当館は主に「THINK(考える)」「SEE(見る)」「DO(作る)」の3つのゾーンで成り立っている。

・EB教室

特殊な石膏基板に絵を描き、その上から樹脂材を塗って電子光線で焼き付けると陶画のように美しく仕上がる作品を作ることができる。



オカリナ

これらの4つの教室は、約1時間余りで制作ができる。費用は材料費のみの負担で、楽しみながら創造力を高めることができる。

岡崎市の小学校4年生を対象にした「造形教室」が行われ、道具の使い方、接着の仕方、基本的な表現方法を学んでいる。

子どもの心をゆさぶる3つのエリア

「おかざき世界子ども美術博物館」や「親子造形センター」で創造の世界にたっぷり浸った後は、野外の3つのエリアで、心も体もリフレッシュすることが出来る。



《ダンス》12歳のポルトガルの子どもの作品

◆「THINK(考える)」このゾーンでは、写真や芸術品の複製を通して、古代から現代までの美術の変貌から芸術の原点・人間のもつ表現力の素晴らしさを知ることができる。

◆「SEE(見る)」このゾーンでは、「見る」を養うことができる。日本を含む世界中の116か国から集めた5万9千点の子どもの絵が収集され、展示されている。さらにピカソ、ムンクなど世界的に有名な芸術家が子どもの頃に描いた貴重な作品を鑑賞し、有名作家の子どもの頃の豊かな感性とあふれる創造力に触れ

星空が描かれた「野外ステージ」を含む「ふれあい広場」にはアートな遊具が点在し、「妖精の棲む浮ぶ島」(表紙右下に掲載)は遠くから見ると浮いているように見え、子どもたちの好奇心をくすぐる。

「はなのき広場」にはベンチがあり、ちょっとしたピクニック気分が味わえる。「芸術の森」には岡崎市の小中学生の作品が展示されている。

当文化広場では令和元年度まで、岡崎市内の幼稚園・小中学校の子どもたち全員の作品を展示した「造形おかざきっ子展」が盛大に開催された(来場者の駐車場の確保が難しくなり、令和2年度から岡崎中央総合公園に移る)。この造形おかざきっ子展に展示された子どもたちの創造性豊かな作品に触れ、木立の間から流れる風を味わうことができるエリアである。年間約17万人の来場者がある。



造形おかざきっ子展